

Akatake Times



令和4年7月31日にマラソンサークルの仲間達と一緒に、富士山に初登頂してきました。写真は、富士山頂の火口付近から撮影したもので、反対側を回ってお鉢巡りになります。写ってはいませんが、左奥が旧富士山測候所になります。富士宮ルート新5合目を出発して5時間、8合目を過ぎると、両手で岩を掴んでよじ登るほどの急勾配で、スパイダーマンのような気分になりました。9号5尺(最後の山小屋)からアタックして30分で、頂上入り口にある鳥居をくぐりゴールしました。帰りは御殿場ルートで宝永山まで行き、火口を横切って戻りました。まったく百聞は一見に如かずだと感じました。最後に再訪しようと言いながら、休日を満喫してきました。



撮影日：2022年7月31日 遠藤 征

◆「感謝のことば」

人間、年齢を重ねてくると、考えることがいろいろあります。

私も歳をとって思い返すことがたくさんあります。

例えば若いころに、当たり前だと思ってやってきた態度や言動が、正しかったのか？

相手の人に違和感や不信感を与えていなかったのか？等々考えたときに、全く自信がありません。

そこで今更ながら人と接するときに、どうしたら相手に違和感を与えずに入っていけるのかな？

ってことを考えてみました。

ほめること、ありがとうと感謝すること、その気持ちは誰に対してでも、いつ、いかなる時にでも、惜しみなく注いでいいと思います。

思っているだけでは感謝の気持ちが伝わらないことがあります。それを口に出すことです。

頭を下げ、「ありがとう」と。感謝の気持ちを、伝えることが大事だと思います。

店で何かを買ってお金を払うときに「ありがとう」。

高速道路の料金所で通行料を支払うとき(今はほとんどETCカード?)も、係員に「ありがとう」。

こちらが「ありがとう」という言葉を発すると、言われた方も悪い気はせず、笑顔で「ありがとうございます」という言葉を返してくれる、はずです。

相手が子供だって、何かしてくれたら「どうも、ありがとうね」と。

こちらがお金を払うお客様だとふんぞり返るのは間違いだと思います。

たしかにお金を払うことで、こちらが「ありがとうございます」と礼を言うのは当然ですが、

こちらもそれを買うことで恩恵を受けているわけで、お互いに挨拶しあうのに「ありがとう」の言葉はふさわしいと思います。

◆「感謝の文化」

英語圏では、バスに乗り降りするとき、あるいはレストランで食事のときも、半ば条件反射のように

「Thank you」「Thanks」を付け加えます。サービスにもすべて対価を求めるアメリカといえども、

誰にでも気軽に笑顔で挨拶し、また「Thank you」「Thanks」という言葉を忘れずに、オープンな心と

余裕を感じさせてくれます。日本人には足りない点ですね。先に言われる前に率先して、ほめて、

感謝して、恨まれることはありません。ほめて、感謝すれば、間違いなく感謝されることでしょう。

会社で仕事をしていて同僚とのやり取りの時、お客様との打ち合わせの時等々、人と接触が

ある場合はすべて、感謝の気持ちを持って接することが出来ればと思います。

◆「感謝と創造」

我が社は粉体機器メーカーなので、常に新しいものを作っていかなければなりません。

ウチにしかないもの、ウチじゃなければできないものを作っていくことが大事。だから開発って大事。

アイデアをどんどん出して、前に進んでいかなければなりません。でも新しいものづくりのアイデアなんて、

そう簡単に出るものではありません。だからアイデアが社員から出てきたら、まず感謝の気持ちをもって

「ありがとう」と声を出して言う。

そうすれば出してくれた社員は、気持ちよく「よし、次もまた何か考えて出そう！」とってくれる。

そうやってたくさんアイデアを社員の皆さんから出してもらう。そこから内容について検討していく。

アイデアを出すのは技術部ばかりではないですよ。

営業だって製造部だって品証だって、とにかく全社を挙げて、色々な案を出し合って、取り組んで

いかなければなりません。新しいものが出来たら、それが特許を取れるかどうか検討して、

どんどん申請することが大事。そうやって自分を守っていくことも大事なこと。

今我が社が持っている特許は52件あります。

せっかく新しく良いものを作っても、マネされてはどうにもならない。特許も大事にしていかなければならない。

とにかく、メーカーとしてウチにしか無いものを、どんどん作っていくことが、そしてそれを武器にして

商売につなげていくことが、安定した経営につながっていきます。

開発、特許の話は、感謝の意を持って人と接することが大事だという意図とは繋がらないようですが、

人は外に出て必ず誰かと接する訳で、どんな時でも感謝の気持ちで接することが大事だと思います。

そうすれば相手もまた自分も幸せな気持ちになれると信じています。ご安全に！！